

県内の遠隔医療ネットワーク

「どこでもMY病院」全国から注目

ICT技術の進化とともに、医療を取り巻く環境も変化してきた。中でも遠隔地の医師が患者データを通信回線で伝送し、専門医の助言を受けながら診療する遠隔医療の分野は、県内で確立された先駆的なシステムが全国から注目を集めている。

全県的な遠隔医療ネットワークとして知られる「K-MIX(かがわ遠隔医療ネットワーク)」は、2003年に運用を開始。14年3月には発展型の「K-MIX+」も稼働した。新ネットワークでは県内15の中核病院で診察した患者の電子カルテや検査画像などを各地域の診療所などと共通のデータセンターを介して共有。各医療機関の連携促進に加え、検査や薬剤投与の重複を抑制する面でも大きな効果を発揮している。

ネットワークでは今後、現在の107施設から

利用できる医療機関をさらに増やし、調剤薬局や介護施設とも連携していく考え。将来的には県民一人一人がタブレットやスマートフォンなどの端末で自身の健康情報を管理できるところまで拡充する構想もあり、「どこでもMY病院」の時代がすぐそこまで来ている。

情報通信相会合の期間中の28～30日は、高松シンポルタワールのタワー棟3階にある「かがわプラザ」で、「K-MIX+ 利活用推進フェア」を開催。ネットワークの概要や将来構想などを説明するパネル展示のほか、企業や団体などがネットワークの利活用の幅を広げるために開発を進めている関連機器やシステム、アプリケーションなどを紹介する。

時間は午前10時～午後5時半。入場無料。問い合わせは、e-HCIK <087(887)4967>。